

## 待降節第4主日の説教

金 大烈 神父 2008年12月21日(日)

《私はあなたの僕です、あなたが思った通りにあなたの御旨に従います。》

おはようございます。

今日読まれた福音(ルカ1・26-38)の中で信者として一番根本的であり、一番難しい教えがありました。その話をする前に少し質問をします。難しい質問ではないので顔を上げて下さい。ここに座っていらっしゃる皆様の中に心配の無い方はいらっしゃいますか？ いませんね。何か心に心配な事はありますか。不安な事が無い方はいらっしゃいますか？ おそらくないでしょう。いろいろな心配や不安が心の否定的な働きになってしまうことが私達の姿ではないでしょうか？ 私も不安になることや心配することが沢山あります。その心配、恐れること不安に陥ることが人間の本能的なものかもしれません。

そうしたら信仰者である私達と信者でない人との区別はどこにあるのでしょうか？ 信者である私達も不安に陥り、心配することが沢山あります。そして信者でない、イエスキリストを全然知らない人たちも同じように心配や不安に当たり前のようになっています。もう一度信者である皆様と信者でない人々との差は何なのか考えて見ましょうか？

今日一番難しい事ですが、私達が根本的に一番解決しなくてはならない事を申し上げたいです。

お互いに認めましょう。私達も不安です。心配があります。いろんな恐れに向かいます。しかし違う所があります。

ナザレと言う村はあまり名前も知られてない小さな所で、日本では村と言えるくらいの規模です。そこで育っていた純粋な乙女がいました。その乙女に大天使ガブリエルが現れて、とんでもない事を伝えたのです。「あなたはこれから身ごもることになる。そして、その子が産まれたら名前をイエス名づけて下さい。」すぐに乙女マリアは思います。男の人を知らないのに、なぜそんな事がありえるのか。そして乙女マリアでなく、皆様でもその場合ではそう答えたと思います。

しかし大天使ガブリエルは答えます。「あなたは恵まれた人、聖霊があなたにとまり、身ごもる事になる。それは人間の力ではなく、神様の恵みによってあなたは偉大な救い主を産む。」その後、マリアは答えます。「はい、私は主のはしためです。思い通りになりますように。」これが答えです。

少し極端な話をします。もし皆さんに一人しかいない子供、それも待ち望んで生まれた子供が重い病気で入院したとしましょう。お医者さんから「この子供は手術しても希望はなく、長生きできません」と言われたらどのような気持ちになるのでしょうか？ やはり気持は『なぜ？』『どうして？』『私にこんなことが？』でしょう。信仰生活しているのに、なぜこのような悲劇に自分が襲われているのでしょうか？ 神様、ちょっとひどいのではないのでしょうか？ と叫びたい気持ちになるのではないのでしょうか？ 極端な話はここまでにします。

それは何も知らない純粋な乙女がいきなり言われた事と同じ事ではないのでしょうか？ 婚約者と結婚の準備をしている時に、突然あなたが身ごもる事になると言われたら、乙女はどの位怖かったでしょう。どうすればいいか答えが出なかったと思います。婚約者であるヨセフにどのように顔を合わせればいいのか。どのように説明すればいいのか。短い時間にいろいろな不安、感情の働きがあったと思います。

しかし彼女は間違いなく神様の愛に恵まれた人です。告白しました。「私はあなたの僕です、あなたがおっしゃった通りにあなたの御旨に従います。」その瞬間、彼女は救い主のお母さんになれました。そして二千年たった現在でも私達の母になっています。

私達もいつかこのような質問をされる時があるかもしれません。必ず来るでしょう。その時「私は

あなたの僕です、あなたがおっしゃった通りにあなたの御旨に従います。」という告白が出来なければ私達はいけないのです。

この質問を開かれたその時の心の状態を考えてみましょう。考えたくないトラブルが起こったとき「これはあなたの何か御旨があるのですか？ あなたに全てを委ねます。どうか私の為、この事のために一番良い道を導いて下さる事を信じます。」と祈りが出来なくてはなりません。

皆さんよく考えてみましょう。私達は死ぬまでいろいろな不便さや会いたくない係わりにぶつかります。それはお金や物、自然、いろいろな関係が入って来ると思います。その中で私には起きてはいけない、起こっては欲しくない事が起こるかもしれません。多分、一回か二回位は起こってしまうでしょう。単刀直入に言うと今、皆さんが愛している家族との別れです。その時、どのような気持ちになるでしょうか？

お願いいたします。待降節最後の日曜日のテーマは、今日マリア様が何も知らない純粋な気持ちでこれは神様の御旨だと悟りながら答えたこの言葉を私達の心にも刻みましょう。

『私はあなたの僕です、あなたが思った通りにあなたの御旨に従います。』それが人間として一番神様に捧げられる信仰の態度ではないかと思えます。

ありがとうございました。